

# 北陸地域の麦作の現状



平成22年8月

北陸農政局  
生産経営流通部 農産課

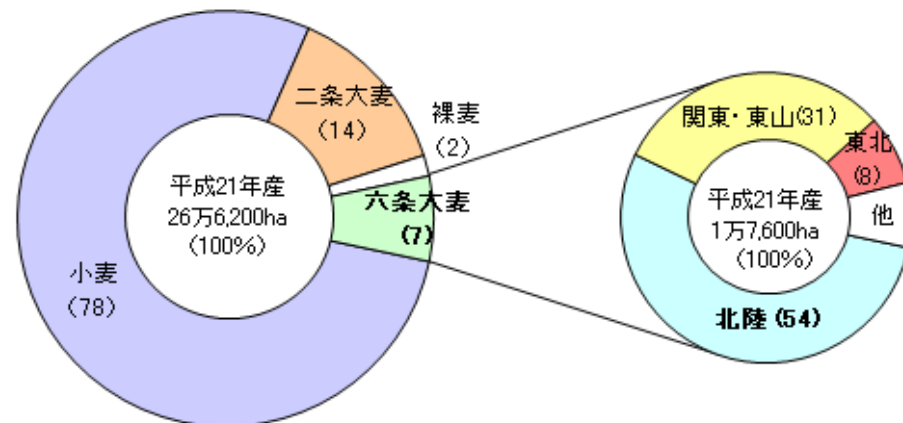
麦種別の作付面積割合（平成21年産）

# 1 六条大麦の作付・生産動向

## (1) 全国における北陸産六条大麦の位置

平成21年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦、裸麦）作付面積に占める六条大麦の割合は約7%である。

また、全国の六条大麦の作付合計に占める北陸の割合は約54%であり、主産地として位置づけられている。



資料：農林水産省統計部「作物統計」

## (2) 六条大麦の作付面積・単収・収穫量の推移

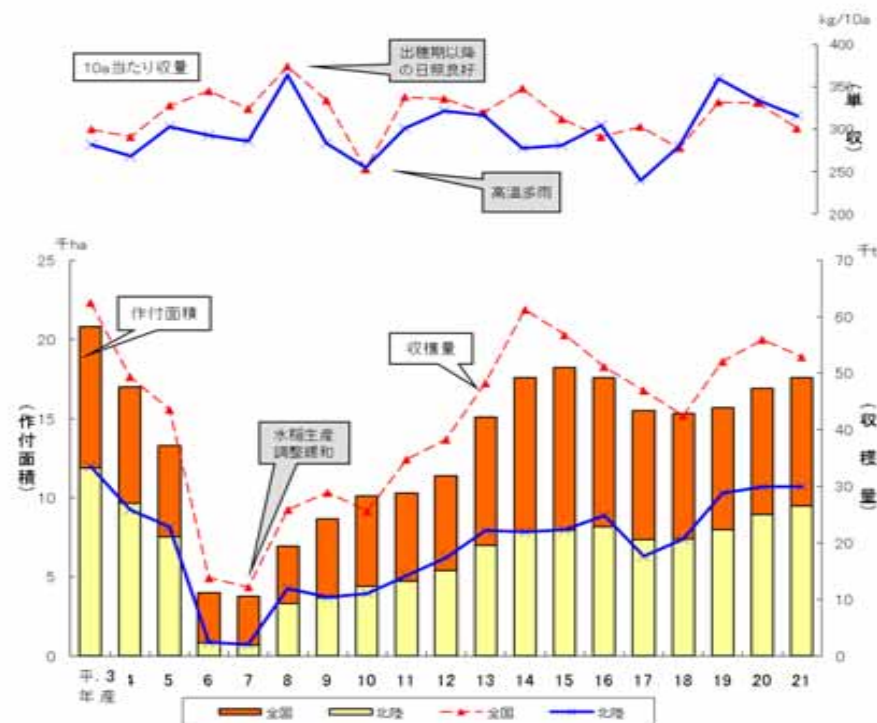
六条大麦の作付面積は、米生産調整の状況に応じて大きく変動しており、特に平成6、7年産は大幅な緩和によって大きく落ち込んだ。

しかし、平成10年からの「新たな麦政策大綱」による麦の本作化の推進により、作付面積及び収穫量は伸びてきている。

単収は、年産によるフレが大きく、作付けが拡大した平成8年産以降の北陸平均をみても最高が364kg(8年産)、最低が240kg(17年産)と100kg以上の格差がある。

また、全国平均に比べて、北陸の単収はやや低位で推移しており、北陸における21年産の単収は316kgであった。

六条大麦の作付面積・単収・収穫量の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計」

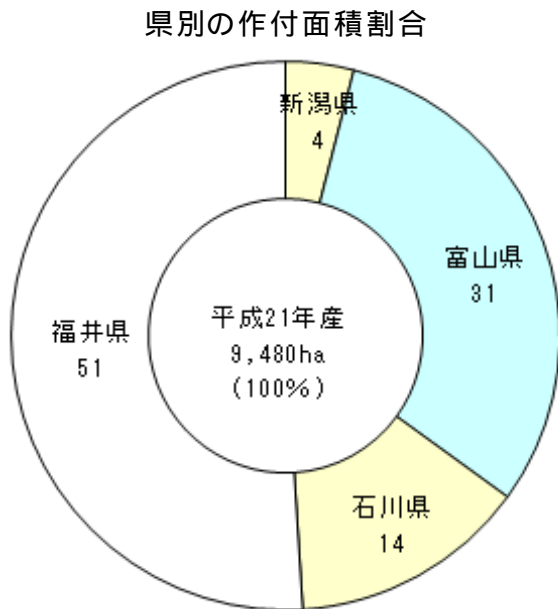
### (3) 県別にみた作付面積・単収・収穫量の推移

北陸地域における平成21年産六条大麦の作付面積は9,480haで、各県別シェアは新潟県が4%、富山県が31%、石川県が14%、福井県が51%となっており、福井県のウェイトが極めて高くなっているが、近年富山県における作付面積の増加が顕著である。

また収穫量をみると、北陸全体では30,000tで、各県別シェアは新潟県が3%、富山県が33%、石川県が12%、福井県が52%となっている。

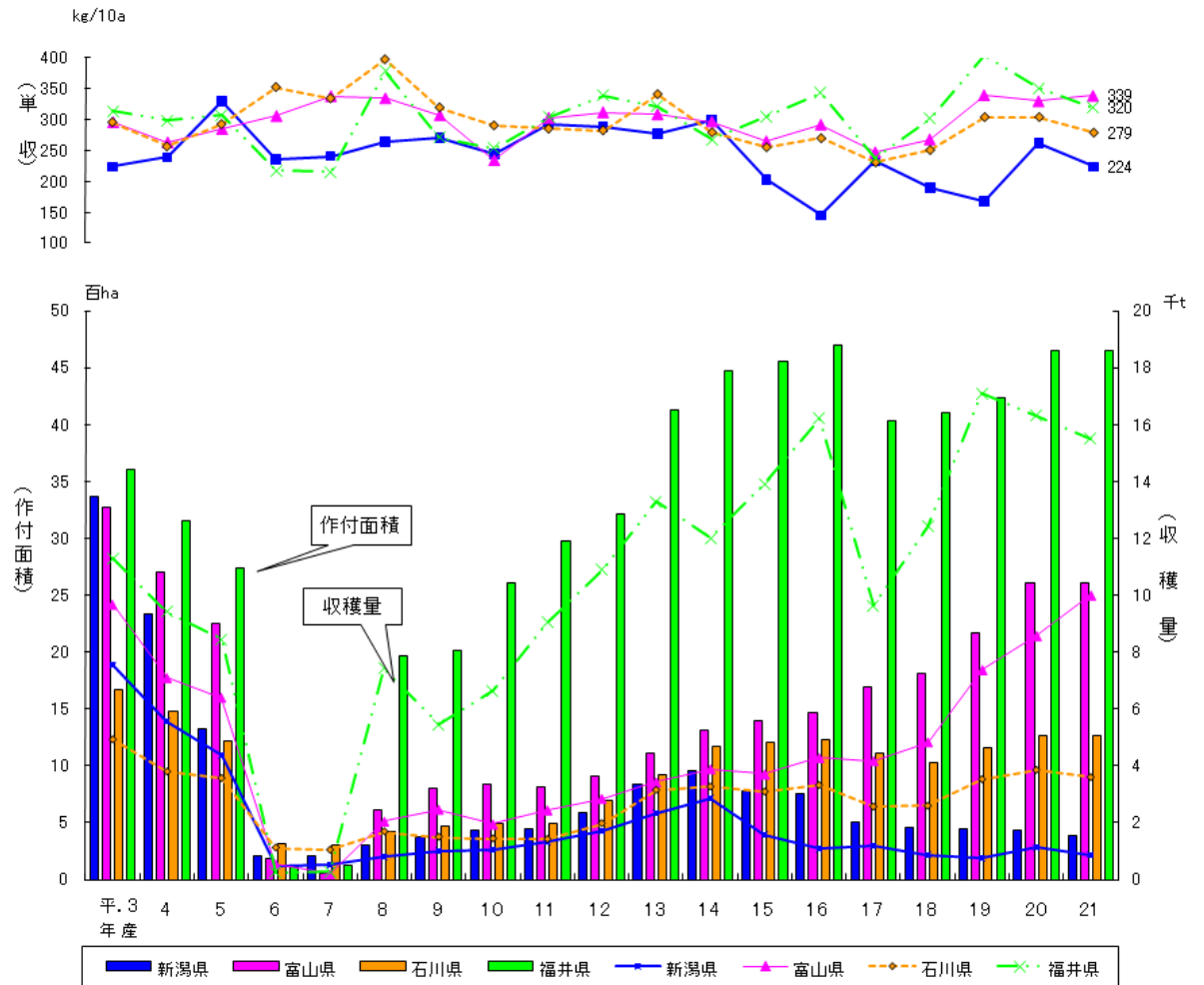
福井県は、六条大麦の作付面積、収穫量ともに全国第1位である。

単収は、各県ともに年産によるフレが大きく、安定生産のための技術確立が課題となっている。



資料：農林水産省統計部「作物統計」

県別の作付面積・単収・収穫量の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計」

#### (4) 品種構成

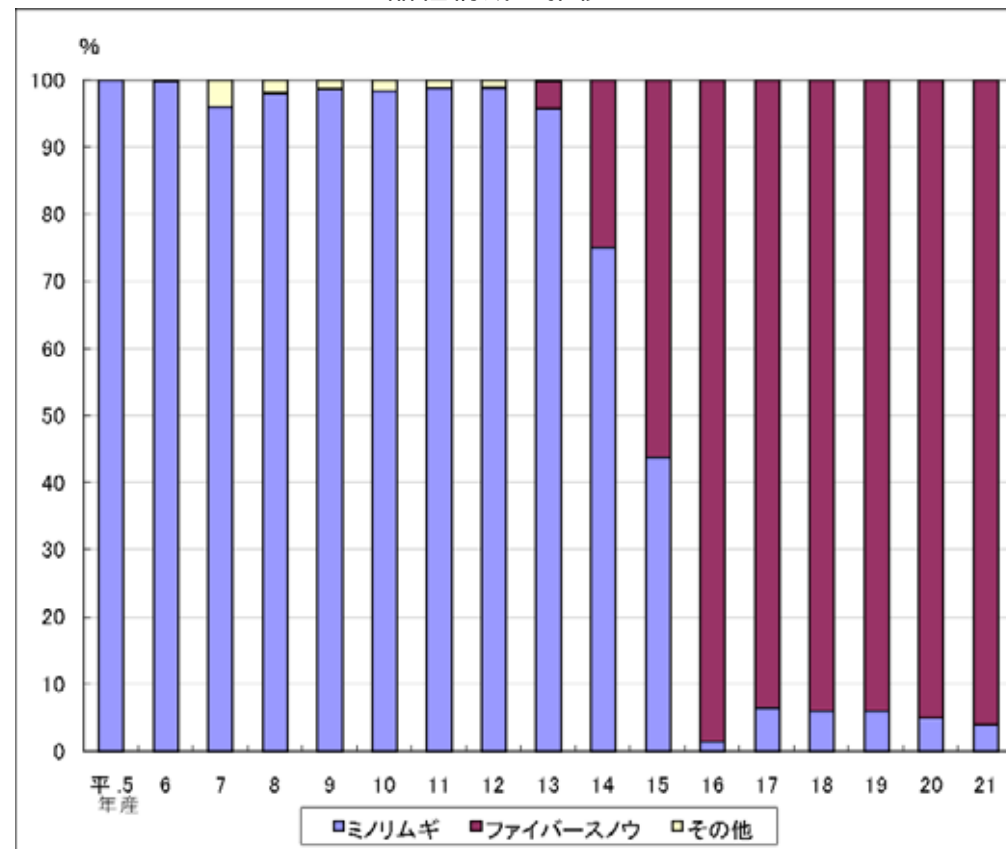
北陸地域における六条大麦の品種構成は、ミノリムギに代わり平成13年産からより精麦特性に優れたファイバースノウに徐々に置き換わっており、21年産では富山県、石川県及び福井県において、ほぼ全量がファイバースノウとなっている。

なお、地元実需の要望等から、新潟県ではミノリムギがほぼ全量となっている。

##### ファイバースノウの特徴

- ・白度が高く、精麦向きである
- ・やや大粒で粒張りが良く、製品歩留まりが高い
- ・ミノリムギより短稈で倒伏に強く、雪にも強い
- ・ミノリムギより茎数や穂数が多く収量も多い
- ・タンパク含量は少ない（麦茶用に向かない）

品種構成の推移

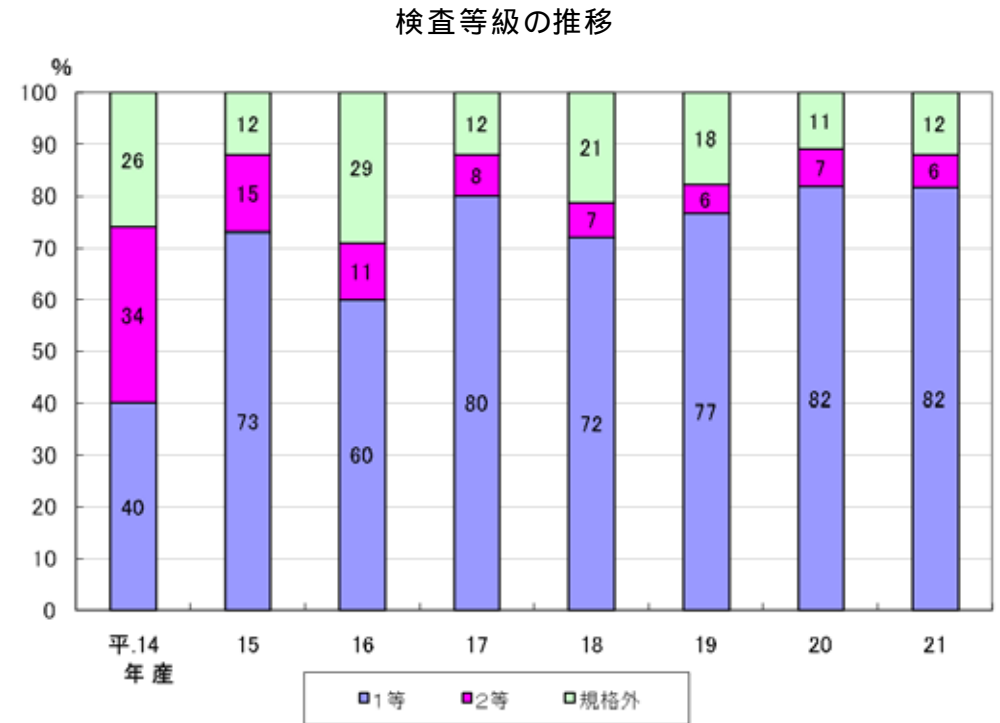


資料：日本麦類研究会「麦の品種別作付け面積」  
18年産からは北陸農政局農産課調べ（各県情報より）

## (5) 品質

北陸地域における六条大麦の品質（検査等級）をみると、21年産（平成22年3月末日現在）の1等比率は82%と良好であったものの、年産・県別にバラツキが大きい。

21年産の県別1等比率は、新潟県が13%、富山県が84%、石川県が60%、福井県が90%となっている。



資料：北陸農政局食糧部調べ

注：平成21年産については、平成22年3月末日現在

## (6) 需給バランス

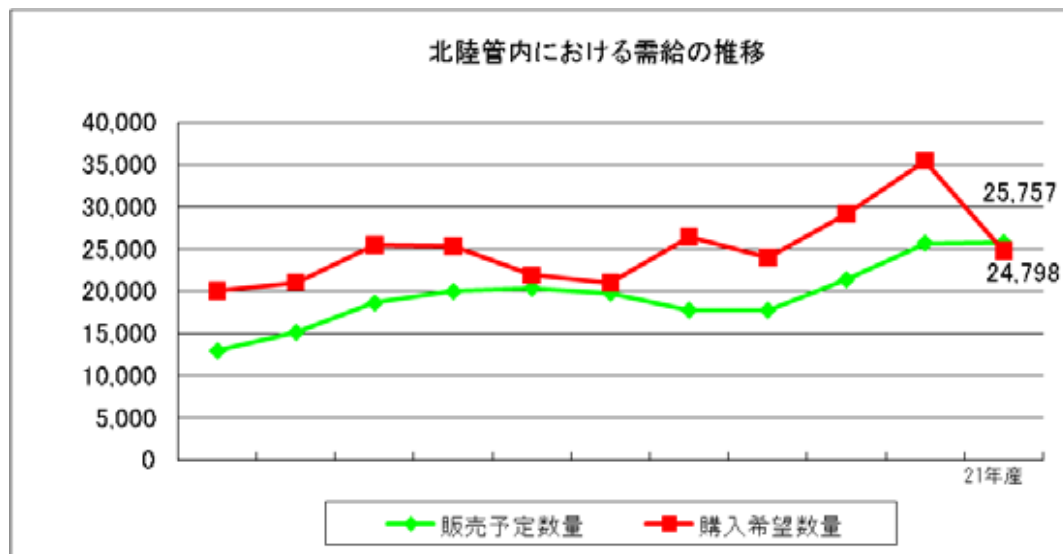
北陸産六条大麦の需給状況は、21年産までは、購入希望が販売予定を上回る逆ミスマッチが発生していたが、22年産では、販売予定数量が購入希望数量を上回るミスマッチの状況となった。

22年産の北陸産大麦では、販売予定が購入希望を約1千トン超える状況となっている。

### 年度別の普通小粒大麦の販売予定数量と購入希望数量(北陸)

(単位:トン)

県名 年産	新潟県			富山県		
	販売予定数量	購入希望数量	ミスマッチ -	販売予定数量	購入希望数量	ミスマッチ -
12	1,054	1,850	796	2,000	5,610	3,610
13	1,689	1,255	434	2,254	4,390	2,136
14	2,591	1,900	691	3,108	4,696	1,588
15	2,200	1,370	830	3,321	4,766	1,445
16	2,430	2,447	17	3,222	3,753	531
17	1,470	1,820	350	3,955	4,015	60
18	970	2,185	1,215	3,895	4,645	750
19	900	1,765	865	4,445	5,097	652
20	945	1,660	715	6,320	6,238	82
21	793	1,455	662	8,516	9,612	1,096
22	798	798	0	9,226	7,850	1,376



県名 年産	石川県			福井県		
	販売予定数量	購入希望数量	ミスマッチ -	販売予定数量	購入希望数量	ミスマッチ -
12	2,000	1,526	474	7,933	11,096	3,163
13	2,000	3,888	1,888	9,220	11,518	2,298
14	2,400	5,703	3,303	10,522	13,202	2,680
15	2,660	5,408	2,748	11,801	13,834	2,033
16	2,959	4,482	1,523	11,755	11,219	536
17	2,872	2,878	6	11,507	12,266	759
18	2,468	3,783	1,315	10,450	15,824	5,374
19	2,578	3,136	558	9,849	13,992	4,143
20	2,915	4,173	1,258	11,200	17,064	5,864
21	3,480	5,316	1,836	12,900	19,098	6,198
22	2,233	2,650	417	13,500	13,500	0

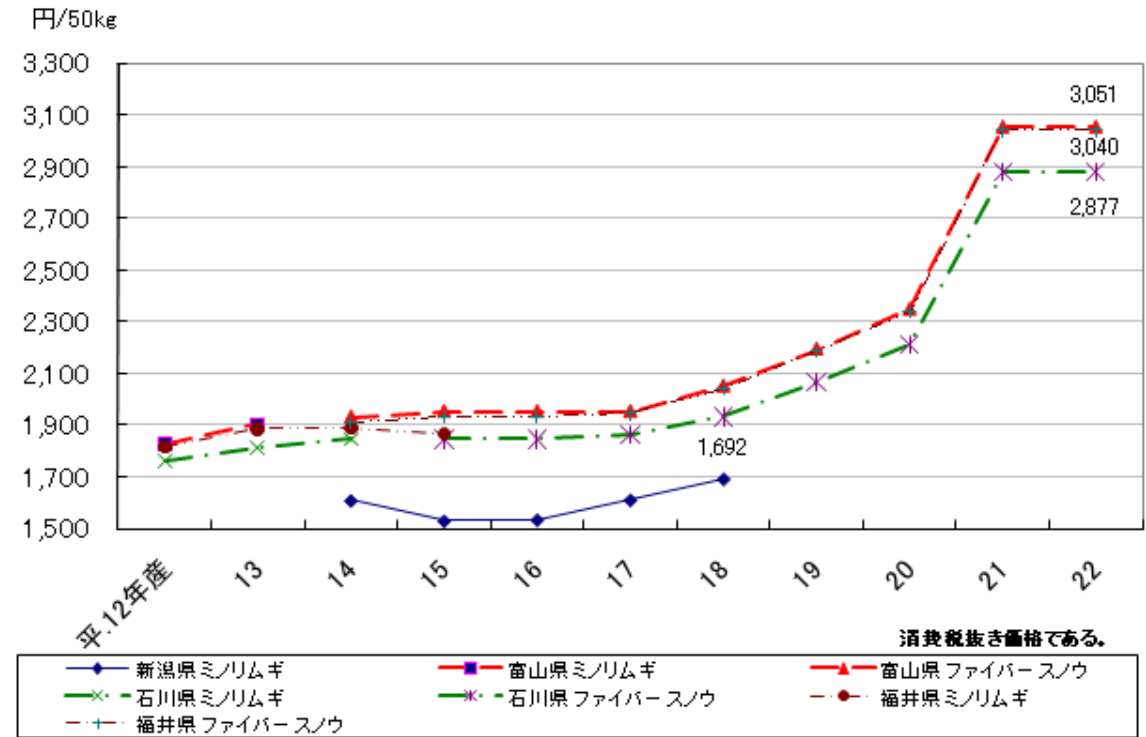
資料：全農県本部及び県経済連

## (7) 価格

麦の価格は、平成12年産から民間流通制度に移行したことに伴い、入札によって決定されている。

北陸産の六条大麦の価格は、近年の堅調な国産麦需要を反映して、上昇している。

入札指標価格の推移



資料：全国米麦改良協会公表

## (8) 水田経営所得安定対策による助成

麦作経営安定資金に代わり、19年産からは品目横断的経営安定対策(現：水田経営所得安定対策)が導入され、担い手の生産コストのうち生産物の販売収入では補えない部分を補う対策として、生産条件不利補正対策交付金(過去の生産実績に基づく交付金、毎年の生産量・品質に基づく交付金)が交付されている。

毎年の生産量・品質に基づく交付金の交付額は、品質評価による「ランク区分」が適用される。

なお、18年産から石川県産ファイバースノウについて、品質改善奨励額のランク区分適用基準に「麦茶用」が設定されている。

毎年の生産量・品質に基づく交付金

単位：円 / 50kg

ランク区分		1等	2等
小粒大麦	A	1,642	676
	B	1,225	259
	C	1,100	134
	D	1,048	82

ランク区分基準

区分	基準
A	に掲げる品質評価項目の基準値を3つ以上達成し、かつ、許容値を全て達成している麦
B	に掲げる品質評価項目の基準値を2つ達成し、かつ、許容値を全て達成している麦
C	に掲げる品質評価項目の基準値を1つ達成し、かつ、許容値を全て達成している麦 に掲げる品質評価項目の基準値を2つ以上達成しているものの、許容値を達成していない麦
D	に掲げる品質評価項目の基準値を全く達成していない麦 に掲げる品質評価項目の基準値を1つ達成しているものの、許容値を達成していない麦 雑銘柄の麦(品種登録の出願が1年以内になされ、かつ、農産物規格規程が定められる見込みがある新品種であって、実需者との間で当該品種として流通する旨の取り決めがなされている場合を除く。) 異なる銘柄を混合している麦

品質評価項目とその基準値、許容値

(1) 主食等用小粒大麦

評価項目	基準値	許容値
容積重	690g/以上	
細麦率	2.2mm(篩)下に2.0%以下	
白度	43以上、基準歩留:55%(農産物検査時から1ヶ月経過したサンプル)	40以上
硝子率	4.0%以下	50%以下

(2) 麦茶用小粒大麦

評価項目	基準値	許容値
たんばく	7.5%以上9.0%未満	6.5%以上
	9.0%以上10.5%未満	
	10.5%以上	
細麦率	2.0mm(篩)下に2.0%以下	

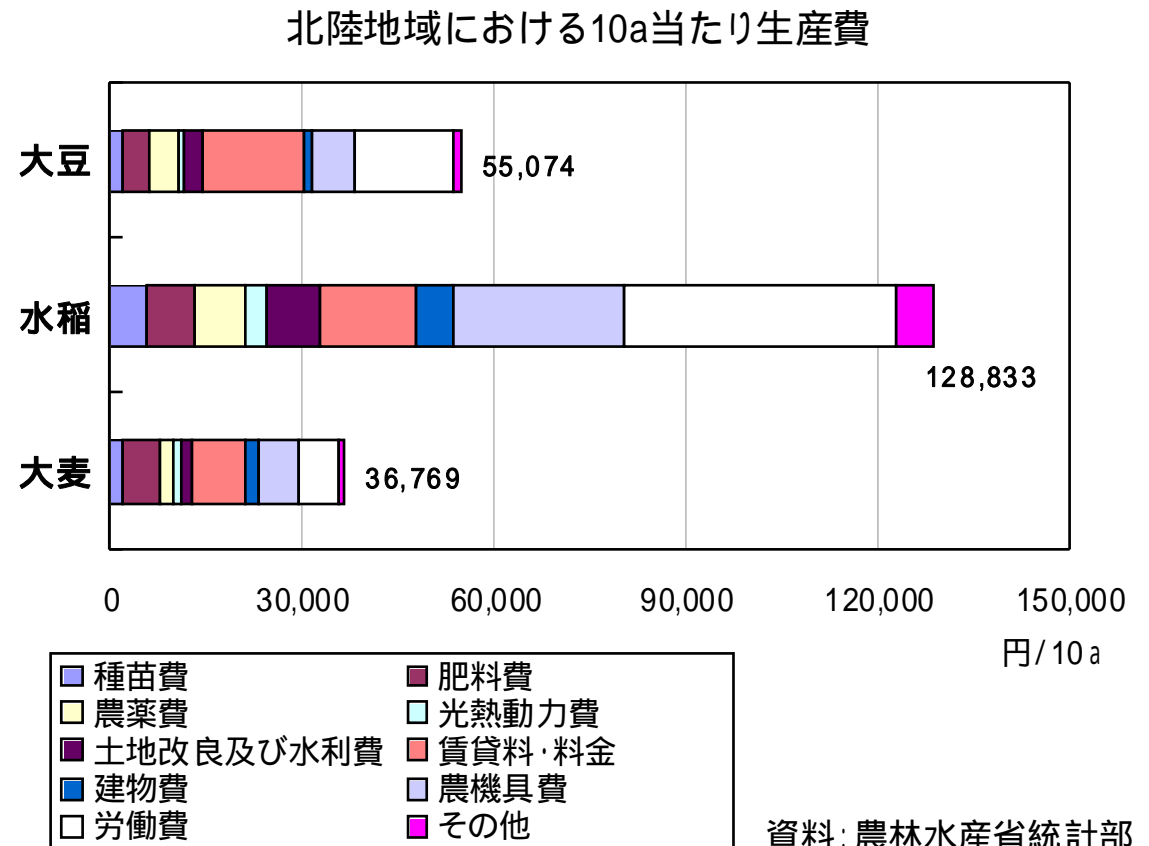
たんばくの は品質評価項目の基準値を1つ達成、 は2つ達成、 は3つ達成したものとする。

資料：全国米麦改良協会公表

## (9) 生産コスト

北陸地域における平成16年産六条大麦麦作の10a当たり費用合計は3万6,769円となっている。

費用全体に占める割合は、賃借料・料金が最も大きい。



注: 平成16年以降は調査を行っていない。